

2009年6月4日プレスリリース

Ref 1229

<http://www.iso.org/iso/pressrelease.htm?refid=Ref1229>

論議の積み重ねが、社会的責任に関する将来の ISO 26000 についてのコンセンサスを向上させる

将来の ISO 26000 発行へ向けて作業をしている社会的責任に関する ISO 作業グループ (ISO/WG SR) の先日開催された総会において、参加したマルチステークホルダー間でのコンセンサスが形成された。

2009年5月18日～22日にカナダ国、ケベック州ケベック市で開かれた第7回総会では、総会前に行われ投票の結果承認された CD (委員会原案) に対して提出された 3,000 以上のコメントから抽出した課題を検討した。ISO 26000 は、2009年10月までに国際規格原案 (DIS) の段階へ移行することとなった。



ケベック総会で撮影された ISO WG SR リーダーシップチーム・メンバー (左から右へ) : Jorge E.R. Cajazeira 議長、Kristina Sandberg 事務局、Eduardo Campos de São Thiago 副事務局、Staffan Söderberg 副議長、Sophie Clivio ISO 中央事務局、技術プログラム・マネージャー (撮影 : Jorge E.R. Cajazeira)

60 カ国から 300 人以上の専門家と約 20 のリエゾン組織が一同に会したケベック総会の主な成果は、投票時に提出されたコメントから重要問題を抽出し、さらにそれへの対処方法について、進展が見られたことである。

ISO 26000 は組織が社会的責任をその運営に取り入れる際の手引となる。この規格は、発

展途上国からの活発な参加を含むマルチステークホルダーの代表によって開発されている。WGにおける発展途上国の数は増え続けており、現在、63の発展途上国から221人の専門家が、先進国からは136人の専門家が参加している。

ケベック総会におけるステークホルダーの意見交換は、貿易障壁、人権及び使いやすさなどの多岐にわたる問題に関して、ISO 26000の完成度をより高める結果となった。

WG SRの議長であるJorge E.R. Cajazeiraはこう述べている。「今回の総会はいくつかの「白熱した」討論を含むすばらしいものでした。それにもかかわらず、正義感と公正さがかつてないほど細部にまで行き渡り、その発行までの道のりにおいて新たに重要な一歩へとISO 26000原案を進展させることができました。」

WG SR副議長のStaffan Söderbergはこう語っている。「我々はその週に合計で約7000時間働きました。305名のSR専門家が複雑な問題に対して合意に達したことは小さな奇跡です。実際に我々は、社会的責任に関する手引の原案について更なるコンセンサスを得ることができ、トンネルの出口に光を見出すことができました。」

総会にはISO副事務総長のKevin McKinley氏が出席し、次のような意見を述べた。「包括的で透明な討論の場を準備するために、前もって1週間にわたってあらゆる努力が行われました。WGはコメントを検討し、文書に関するコンセンサスを高めることに注力することができました。」

第7回総会は*Bureau de normalisation du Québec* (BNQ-ケベック州標準局)主催、カナダ規格協会及び*Ministère des Relations Internationales du Québec* (ケベック国際関係省)の後援により開催された。ケベック州知事Jean Charest、国際関係大臣Pierre Arcandが参加者に歓迎の挨拶を行った。

社会的責任の精神のもと、本総会は「ゼロ排出-ゼロ炭素」の総会を目指して組織された。このWGでは初めての試みである。

次回ISO/WG SR総会は2010年前半にデンマークのコペンハーゲンで開催する予定である。ISO 26000の発行は2010年9月を目標にしている。

詳細情報：

ISO/WG SR及びISO 26000に関してより詳しい情報は公式ウェブサイト：www.iso.org/sr にアクセスしてください。作業文書はwww.iso.org/wgsr に公開されています。